

令和6年度 第2回学校運営協議会議事録

1 開催日時

令和6年6月1日(土) 開会：午前10時 閉会：午前12時

2 開催場所

静岡県立三島南高等学校 会議室

3 出席委員数

5人（会長 三田 章裕・副会長 大嶋 孝博・委員 鈴木 廣幸・委員 村上 利恵子・委員 寺村 智穂）

4 函嶺祭文化の部（一般公開）自由見学

5 校長挨拶

（保護者代表 寺村委員に任命状を交付）

今年度の函嶺祭は、3年次生のみ地元企業と連携して模擬店を行い、新たに部活動の参画として運動部とキッチンカーのコラボレーションを実施した。探究活動の発表として、2・3年次生はポスター展示を行った。1年次生は自分のロゴマークを作り、展示して来場者に投票してもらった。3日（月）の体育の部も予定通り実施する見込みである。

前回の学校運営協議会以降の学校の様子としては、ゴールデンウィーク明けの中間テスト終了後、函嶺祭準備が活発となった。また、インターハイ予選では、女子バレー部の県大会決勝戦が行われ、接戦の末、惜しくも負けてしまった。女子バレー部と女子ソフトテニス部3ペアが東海大会に進出する。

6 函嶺祭実施内容の説明（説明者：生徒会会長・副会長）

スローガン「笑華」について説明。一人ひとりの笑顔が輝くような函嶺祭を作り上げたいという意味が込められている。

今年度は大会がある部活を除く全ての部活が展示や販売、試合や体験教室など、様々な形で活動している。

クラス色にあわせた装飾がほどこされており、フロアーごとの雰囲気の違いが装飾も見どころの一つである。

7 議事（司会：三田会長）

今回から新たに保護者代表委員の寺村様に加わっていただき、学校運営協議会を開催することとなった。この後の議事についてもよろしくお願いいたします。

(1) 総合的な探究の時間「自覚探究」の取組について

（説明者：図書探究課 川口 友里 教諭（図書探究課長）、諸星 恵里 教諭）

ア 函嶺祭模擬店について

昨年度の反省を生かして、今年度は販売の時間を4つに区切り、数量を調整することにより、売り切れや売れ残りがないように各クラスで工夫をした。

イ 函嶺祭展示について

日常の探究活動の発表の場として、1年次生はロゴマークを、2・3年次生はポ

スターを3階フロアーに展示してある。

ウ 3年間の流れ

- (ア) 1年次生：① 自己探究（自分の特性を知るプログラム・「自分ロゴ」作成）
② 探究スキルアップ（情報収集・整理分析）
③ 地域探究（フィールドワーク）

- (イ) 2年次生：① 自己探究「学問分野」
② 社会探究（進路課題設定）
③ 進路探究（「志望理由書」の作成）

- (ウ) 3年次生：地域資源探究（函嶺祭模擬店）

また、今回3年次生は「志望理由書」をもとに、大学からのフィードバックも行っており、進路実現に向けた流れとなっている。

（大嶋副会長）パネル展示はとても見応えがあった。

（鈴木校長）よくできているものについては、昨年度の探究発表会で発表した。

（鈴木委員）模擬店で地元の企業が参加していてとても有難いと思った。これからなるべく地元の企業とコラボして続けていきたい。

（三田会長）今後、各学年の目標に向かって取り組む経過を見ていきたいと思う。

(2) 「効果のある学校づくり」について（説明者：鳴門教育大学 渡邊 旬 教諭）

昨年11月に全生徒に向けてアンケートを実施し、三南生の「内面と行動の構造図」を作成した。一番重要になってくるのは、根底にある「自分への信頼」であり、それが様々な生徒の活動に影響を与えることが分かった。

本校では校長から「ポジティブなボイスシャワーで生徒に自信と勇気を、そして生徒を信頼して任せる」という方針が示されており、多くの先生がそれに則って生徒に声かけを行っている。

4月には、鳴門教育大学の久我教授に「将来の幸せのために共に学ぼう」というテーマで講演を行ってもらった。振返りアンケートでは、三南生は一見元気で明るい生徒という印象だが、多くの生徒が、誰かにありのままの自分の存在を認めてもらいたいと思っていると感じた。

また三南生の特徴として、「保護者や友人、先生から大切にされている」という感覚がある一方、自分自身を肯定できない「自信のなさ」が見受けられる。今、生徒の自己肯定感を高めるために様々な活動をしているところである。7月に中間アンケート、11月に総括アンケートを行い調査する予定である。

（三田会長）昔、中学生にアンケートをとったことがあったが、その時も生徒の自己肯定感が低かった。生徒の強みを生かす教員の働きかけの一つとして、褒め言葉のシャワーのような地道な取組が必要になってくると思う。

（村上委員）家庭ではなかなか褒める場面がなく、否定することが多い。仕事で幼児期の子どもたちと関わる中で、褒める時はどういう所が良かったのかを具体的に褒めるようにしなさいと研修で学んだ。自分の子どもに対しても幼児期の頃から褒めて育てていればもう少し違ったのではないかなと思う。

（寺村委員）一番上の子に対してはできないことに目を向けてしまい、厳しくしてしまう。下の子にはできたことを褒め、親の評価に差が生じてしまう。学校で良いところを見つけてもらい、褒められることはとても良いことだと思う。

- (渡邊教諭) 時代と共に大きく教育転換し、自分が受けた教育と今自分が行わなければいけない教育の違いに教員も戸惑っている。そんな中で、生徒の自己肯定感を高めるために組織的に取り組むことが必要であると考えている。
- (三田会長) 生徒以上に先生の意識を変えることが非常に難しい。先生が元気になれば生徒も元気になるので、学校改革の一部として、先生方に対しても働きかけをし、自信を持って教壇に立てるような雰囲気づくりをしていただきたい。
- (大嶋副会長) 学習面だけでなく、部活動でも同じであるべきと考えるがいかがか。
- (渡邊教諭) 今、部活動でも生徒が主体的に考える動きが出てきている。自分がどういう状況で、今何をしたいと思っているのか、その方法、動機付けという流れは、学習でもスポーツでも同じである。社会全体がそういう流れにシフトしてきている。
- (鈴木校長) やらされているうちは伸びない。科学的に分析するとか自分で考えるなど、一歩先に進むことを期待している。
- (村上委員) 今年度の函嶺祭は教室以外にも分散しているので廊下も通りやすく、ゆっくりと見ることができた。去年とは違う賑わいがあったと思う。
- (寺村委員) 昨年度は模擬店を中心に見たが、今年度は探究活動の展示をじっくり見ることができた。探究活動は、今後将来に役立つものであると思う。
- (鈴木委員) 自分の高校時代とは違って、活動も活発であり、大勢の来場者で賑わっていてびっくりした。
- (大嶋副会長) 探究の発表については、地域や企業、業種の課題を調べ、生徒なりの考えをまとめてあって非常に見応えがあった。生徒ならではの発想がたいへん面白いと思った。
- (鈴木校長) 端末を使って発表することが多くなり、紙で発表する機会が少なくなっている。今日は展示を見ていただいて良かったと思っている。

8 報告事項

- (佐々木教頭) (1) 高校総体の結果報告
(2) 新聞掲載記事報告
(3) 韓国高校生派遣研修決定報告(7/28～8/2)

9 閉会(大嶋副会長)

今日の展示を見て、継続することにより探究活動が目に見える形になってきたと思った。また、デジタルに走りすぎないで、アナログの部分の時間を作ることが大切であると感じる。できれば、デジタルで効率化を進め、アナログの時間を増やすことが理想である。運営協議会としてこのままの形で後押しできたらと考える。

10 今後の予定

- 第3回 11月9日(土) オープンスクールの授業見学と諸課題の協議
第4回 2月 年間反省・評価、課題整理